

P D C A サイクルを意識した学校評価システムに関する研究

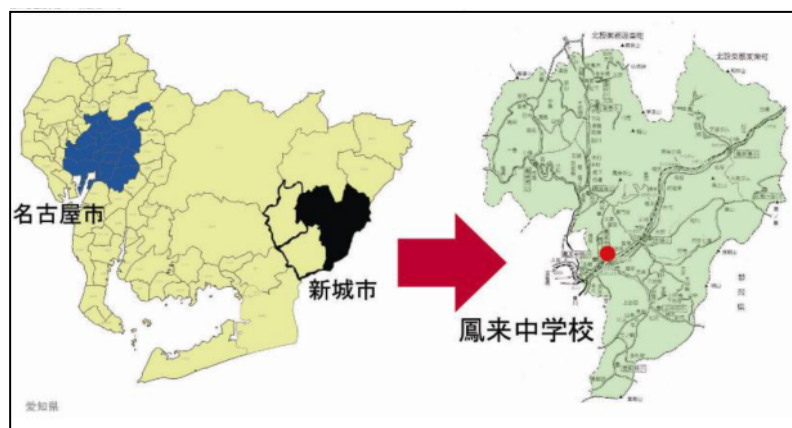
新城市立鳳来中学校

1 はじめに

本校は、新城市の北東部（旧鳳来町）に位置する。（図1）そして校区は、名古屋市の面積の約5分の4という広大なものである。校区の自然環境は県下有数で、県民の森や阿寺の七滝をはじめとする景勝地が各所に点在する。また、鳳来寺山東照宮や長篠城址などの史跡も多い。校区の人口は約1万5千人、行政区は96もある。校区のほとんどは山林と田畑で、働く場所も限られているため、多くの住民は自家用車を利用して豊川・豊橋方面へ働きに出ている。過疎化と高齢化が大きな問題となっている。地域の過疎化に伴い生徒数も年々減少し、現在の生徒数は344名、学級数は特別支援学級を含め10学級である。生徒は、九つの小学校（複式学級を設ける学校は6校）から入学してくる。そのため、入学早々、学級の友達づくりの場として、また中学校生活に順応しやすいように、宿泊体験学習を実施している。電車とバス利用の遠距離通学生徒は約7割もいるため、登下校時の交通安全や不審者対策での配慮が重要課題となっている。（表1）また、登下校の時間帯も生徒により異なるため、授業や部活動での時間的制約を余儀なくされている。特に暴風雨時などの異常気象の際は、登下校についての保護者からの問い合わせに対して即答の難しさがある。また、保護者と緊急の連絡を取りたくても、山間部のため、携帯電話が通じない地域が何か所もある。保護者間のつながりという面では、校区が広いこともあり、やや希薄である。しかし、教育への関心は高く、授業参観や学校行事などへの参加者は多い。

昨年度からの学校評価に関する研究は、2年目を迎える。まだまだ手探りの研究であるが、学校評価の重要性を再認識すると同時に、多くの課題が見えてきた。地域に開かれた学校づくり、地域に信頼される学校づくり、そして、職員一人一人にとって働き甲斐のある学校づくりを目指して、本年度も、学校評価に関する研究を行い、着実に改善への取組を実践した。

【図1 新城市及び鳳来中学校の位置】



【表1 平成19年度通学方法別人数】

通学方法別人数				
	1年	2年	3年	計
徒歩	18	19	26	63
自転車	16	17	21	54
市バス	17	27	17	61
業者バス	22	26	28	76
J R	31	27	37	95
計	104	116	129	349

※市バスと業者バスは、一部重複生徒あり

2 平成19年度の取組

昨年度の学校評価の研究実践を通し、①Check（評価）とAction（改善）に関する問題、②アンケート作成に伴う問題、③アンケート分析に関する問題、④学校評議員の委嘱の問題の4点が課題として残された。

そこで、本年度は、これらの課題の改善に加え、下記の点について、改善を図った。

(1) 学校評価組織の見直し

ア 「鳳中生を語り見守る会」(学校評議員会)の充実
これまでの学校評議員会は、どちらかといえば、学校側の準備したアンケート結果などの資料を基に学校側からの一方的な説明をし、それに対してのご意見や感想を頂くことが多かった。今年度は、できるだけ学校評議員の方から率直な意見を聞くという形に変えた。また、意見交換の項目を焦点化し、常に学校教育目標の実現を念頭に置いた話し合いができるようにした。

外部評価については、年2回の「鳳中生を語り見守る会」で実施することにした。同会のメンバーは、社会教育指導員、民生委員、児童委員、保護司、各地区の駐在、PTA会長、PTA生徒育成委員の7名で、本校の職員(校長、教頭、生徒指導主事、各学年の代表の計6名)が同席する。メンバーは昨年度大きく変えたので、今年も昨年同様13人をお願いした。

今年度第1回目の「鳳中生を語り見守る会」では、資料1の内容で実施し、生徒及び保護者を対象とした「生活アンケート」を基にした学校評価の報告と、ここ数年本校の生徒の間でトラブルの一因となっている携帯電話について話し合いをもった。事前に「携帯電話に関するアンケート」を生徒指導部で全校生徒を対象に実施し、分析結果を会で報告し、問題点について意見交換の資料とした。(資料2)

資料1

平成19年度「鳳中生を語り見守る会」

日時 平成19年7月26日 19:30～

場所 鳳来中学校(会議室)

1 あいさつ

① 生徒育成委員長

② 校長

2 情報交換

(1) 鳳中生の様子

① 生徒指導面から

・良い面・改善を要する面

・不登校生の実態

・学校からのお願い

② 各学年の様子(各学年生徒指導担当)

・学年の課題

③ 保護者の視点で(生徒育成委員長)

(2) 各代表からのお話

① 民生委員長

② 保護司会代表

③ 主任児童委員

④ 駐在所代表

⑤ 元鳳来中学校長

(3) アンケート等から見た生徒の様子

① 「学校評価」から

② 「携帯電話アンケート」から

(4) 質問・意見交換

3 その他

4 お礼のことば

① PTA会長

② 校長

資料2

《携帯電話にかかわるトラブルや問題の例》

こんな事例が報告されています。

◇通話やメールをやりすぎて、1か月の使用料金が高額になってしまった。

◇知らない間に自分のアドレスが知られ、いやがらせや脅しのメールが送られてきた。

◇メールで送られてきたサイトにアクセスしたら、高額の料金を請求された。

◇出会い系サイトで知り合った人と会う約束をし、待ち合わせ場所に行ったら、お金を脅し取られた。

◇知らない番号からかかってきたので着信履歴からかけ直したら、アダルトサイトにつながってしまい、高額の料金を請求された。

◇自転車に乗りながらメールに夢中になっていたら、車とぶつかって大けがをした。

◇メールのやりとりで誤解が生まれ、友達との仲が気まずくなってしまった。

◇夜中にメールをやり続けて生活のリズムが狂い、授業に集中できなくなって、成績が大幅に下がった。

イ 自己評価の充実

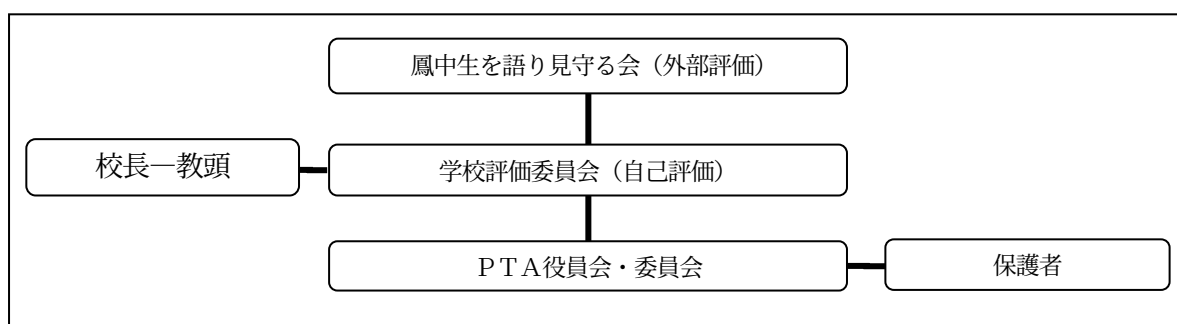
学校評価は、自己評価を中心に実施し（生徒及び保護者アンケートを内部評価の一部としてとらえてきた）、また、自己評価を行う者は、全職員とし、年3回実施することにした。（図2）

学校評価委員会は、校長、教頭、教務主任、校務主任と学年主任の7名で組織し、学期に一度アンケート調査の集計と分析に取り組むことにした。（集計は、学級担任が行い、データの入力、教頭が行うことにした。分析はアンケートの結果を基に学校評価委員会で行うことにした）

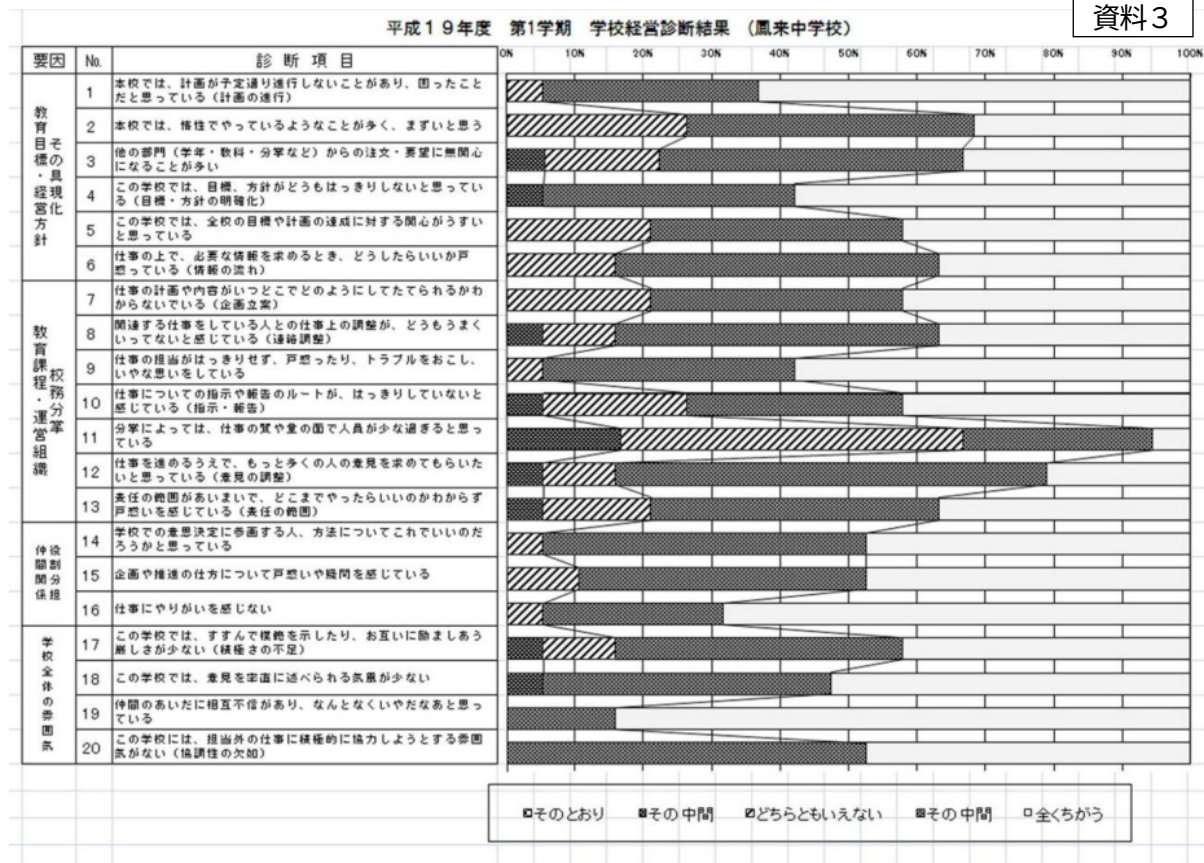
職員には、学校行事を中心とした教育活動について、記述式アンケートを実施した。また、その結果を全職員に公表して教育活動の改善に役立てることにした。併せて、学校運営に関する評価も実施し、組織力発揮の一助とした。（資料3）

自己評価の公表方法については、職員会議の際に文書で示し、担当職員がアンケート結果を解説し意見交換を行うことにより、職員の学校経営参画意識を高め、共通理解を図り、学校経営の改善に努力する意欲をより喚起しようとした。

【図2 学校評価組織図】



資料3



(2) アンケートの工夫・改善

自己評価の一環としてのアンケートは、校務分掌の各担当者が作成し、学校評価委員会で内容の検討を行うこととした。

各学期1回、生徒及び保護者を対象に下のような「生活アンケート」を実施した。(資料4)アンケートの評価項目は、学校に潜在化している課題を把握するために、教育目標全般、学校行事、学習、生徒指導など、「全方位型」とした。また、生徒用アンケートには、「鳳来中のよいところ」、保護者用アンケートには、「学校教育への期待」など、記述の項目を設けるようにした。

学校行事については、その都度アンケート形式で実施し、事業所や保護者の評価も求めていくようにした。なお、PTA活動についての評価は、年間の活動を終える年度末に実施し、新メンバーとの事務引継の際に説明、審議した上で次年度の活動へつなげるようにした。

資料4-1

平成19年度 1学期 生徒アンケート	
鳳来中学校	
1学期の学校生活を振り返って、下の項目について自己評価してみてください。みなさんと共に2学期以降の学校生活が充実するように努力していきたいと思ひます。	
わたしは()年 男・女	
該当する記号を回答欄に記入してください。 ↓ 回答欄	
A: そう思う B: どちらかといえばそう思う C: どちらかといえばそう思わない D: まったくそう思わない	
基本的な生活習慣	
(1) わたしは、時間を意識した規則正しい生活ができている。	<u>1</u> _____
(2) わたしは、家人や地域の人たちにあいさつができている。	<u>2</u> _____
(3) わたしは、身の回りの整理・整頓ができている。	<u>3</u> _____
(4) わたしは、さわやかな服装や身なりに気を配っている。	<u>4</u> _____
学習への取り組み	
(5) わたしは、授業に真剣に取り組めた。	<u>5</u> _____
(6) わたしは、授業で発言・発表を多くしようと努力した。	<u>6</u> _____
(7) わたしは、ノートや作品、課題が確実に提出できた。	<u>7</u> _____
(8) あなたの自宅での学習時間は、平日でおよそ何時間ですか。 ※ 塾での学習も含む (A: 3時間程度 B: 2時間程度 C: 1時間程度 D: 30分以下)	<u>8</u> _____
(9) あなたは、いくつの教科が「学年としておおよそ満足できる状況(評定3)に達していると思ひますか。 (A: 8教科以上 B: 5~7教科 C: 3, 4教科 D: 2教科以下)	<u>9</u> _____
学校生活	
(10) わたしは、清掃や係活動がしっかりできた。	<u>10</u> _____
(11) わたしは、部活動に積極的に参加できた。	<u>11</u> _____
(12) わたしは、担任と十分話し合う機会がもてた。	<u>12</u> _____
(13) わたしは、部活顧問と十分話し合う機会がもてた。	<u>13</u> _____
(14) わたしは、いじめで悩むことはなかった。	<u>14</u> _____
(15) わたしは、学年通信や学級通信をその都度読んでいる。	<u>15</u> _____
安全の確保	
(16) わたしは登下校のとき、安全面に気を配ることができた。 (交通ルールを守ることや不審者対策)	<u>16</u> _____
(17) わたしの家では、地震に備えて準備している。(話し合いも含めて)	<u>17</u> _____
鳳中生の良いところ	
(18) あなたが感じている鳳中生の良いところは何か。(具体的に書いてください)	
ご協力ありがとうございました。	

平成19年度 1学期 保護者アンケート

鳳来中学校

1学期の本校の教育活動を、あなたのお子さんの姿を通して評価していただき、さらにすばらしい鳳来中学校づくり
に生かしたいと思います。

鳳来中学校の教育目標

知 ー はるかなる理想を求めて 新しき文化のあすを (文化の継承と想像) 自ら学び、深く考え、 主体的に行動できる力	徳 ー 肩くめばこころかよいて 友と生く悔いなき日々 (基本的生活習慣の育成) 礼節を重んじ、自らを律し 他とともに心豊かな生活を築く力	体 ー たくましく歩み (心身ともにたくましい成長) 命を尊び、心や体を鍛え たくましくいきる力
--	--	---

あなたのお子さんは、() 年 男 ・ 女

※ 二人いる場合は別々の用紙でお答えください。

該当する記号を回答欄に記入してください。 ↓ 回答欄

A : そう思う B : どちらかといえばそう思う C : どちらかといえばそう思わない D : まったくそう思わない

基本的生活習慣

- (1) お子さんは、時間を意識した規則正しい生活ができている。
(2) お子さんは、さわやかな服装や身なりに気を配っている。
(3) お子さんは、家人や地域の人たちにあいさつができている。

1
2
3

学習への取り組み

- (4) お子さんは、自分で計画を立て学習に取り組む習慣が身についている。
(5) お子さんは、宿題等をきちんと提出できる基本的学習の習慣が身についている。
(6) お子さんに十分理解できる授業がなされている。
(7) お子さんの自宅での学習時間は、平日でおよそ何時間ですか。 ※ 塾での学習も含む
(A : 3時間程度 B : 2時間程度 C : 1時間程度 D : 30分以下)

4
5
6
7

学校生活

- (8) お子さんは、担任とのコミュニケーションがとれている。
(9) お子さんは、部活動などのコミュニケーションがとれている。
(10) お子さんは、「良好な人間関係づくり」を図ることができる。
(11) お子さんは、いじめにはあてはまらない。

8
9
10
11

開かれた学校

- (12) 学校からの情報(学年通信や学級通信など)提供により、学校の様子がわかっている。
(13) お子さんや学校を知るうえで、学校に出向く機会は十分設定されていた。
(14) 遠足や文化祭などの学校行事への参加・お手伝いなど、機会があれば協力したい。

12
13
14

学校教育への期待

- (15) 本校の教育にもっとも期待したいことがらは何ですか。
A 学習意欲を高め基礎学力を伸ばす B 道徳心や思いやりの心を育てる
C 社会で必要なマナーやルールを教える D 表現力やコミュニケーション能力を伸長
E 健康な体づくりと体力を向上させる F 食育を充実させる

15

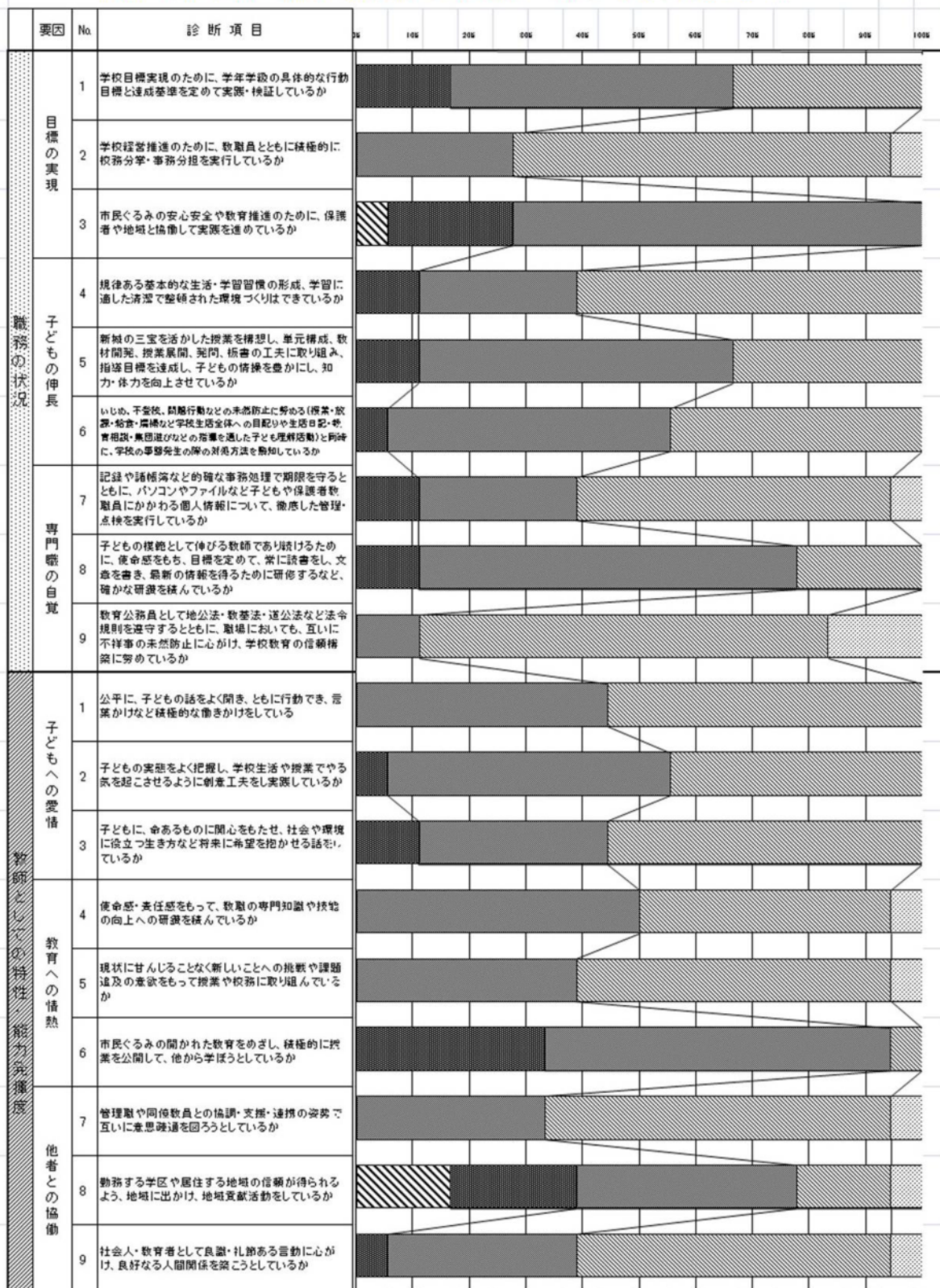
★その他の期待(具体的にお書きください)

◎ 個人懇談会の折りに、担任へ提出してください。 ご協力ありがとうございました。

(3) 「教員評価シート」の効果的な活用(PDCAサイクルの職員への意識付け)

本校での「教員評価シート」の運用は、今年で3年目となる。PDCAサイクルを職員へ意識付け、職員各自が授業や校務分掌で校長の学校教育方針を受けて目標を設定し、学期ごとに評価し改善を図っていくことを目指した。職員各自が、年度当初に、授業や校務分掌の目標を設定し、年2回(1学期と2学期の終わりに)校長・教頭の助言を受けながら、改善を図るようにした。(資料5)

平成19年度1学期末 新城市「教師力向上」自己評価シート結果 (鳳来中学校) 2007.9.3



回答は5段階評価によるもの

☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5

(4) 学校評価の年間計画の作成

学校評価を進める上でのPDCAサイクルを定着させるため、平成18年度の年度末に学校評価の年間計画を作成することにした。学年末考査の慌ただしい時期は避け、3学期早々から「学校教育の総点検表」（資料6）を作成し、それを基に「平成19年度 学校評価の年間計画表」（資料7）を作成していった。そして、年度初めの4月に、新しい学校組織の下で、計画を再度確認してスタートするようにした。

資料6

資料 6

[illegible]

平成 19 年度 学校評価の年間計画表

資料 7

	学校評価委員会など	アンケート	公開・報告など
18 年 2 月	・ H18「学校評価の総点検表」の作成	・ PTA 活動アンケート (次年度へのアドバイス)	・ 第 2 回生徒・保護者向けアンケート結果の 公開と報告 (PTA 委員会・学年通信など)
3 月	・ 学校評価委員会 ・ 鳳中生を語り見守る会 (3/16)		・ 「学校評価の総点検表」と第 2 回生徒・保 護者向けアンケートの報告 (鳳中生を語り 見守る会) ・ 「教員評価シート」を基に個人面談 ※評価と次年度に向けての助言
19 年 4 月	・ 学校経営方針の決定 ・ 各分掌、各学年、各教科の目標決定	・ 事業所アンケート (1 年宿 泊体験学習) ※山びこの丘	・ 前年度の学校評価の報告と本年度の学校経営 方針等の説明 (PTA 総会・学年 PTA)
5 月	・ 学校経営案、学年経営案、学級経営案、 部活動経営案など作成	・ 事業所アンケート (3 年修 学旅行の行き方研修) ※東京都内の事業所	
6 月	・ 生徒・保護者向けアンケート内容の検 討 (学校評価委員会)		
7 月	・ 学校評価委員会 ・ アンケート実施 ・ アンケートの集約と分析及び改善策の 検討 ・ 第 1 回鳳中生を語り見守る会	・ 第 1 回生徒・保護者向けア ンケートの実施 ・ 職員による 1 学期の自己評 価 (1 学期の反省と 2 学期 への提言・評価シート)	・ 「教員評価シート」(個人面談) ※確認と助言 (夏休み前に) ※鳳中生を語り見守る会で、第 1 回生徒・ 保護者向けアンケートの分析結果の報告
8 月	・ 各分掌・各学年・各教科の中間報告 (8/9) ※生徒・保護者向けアンケートの分析 結果を基に検討会	・ 学校運営に関する評価 ・ 事業所へのアンケート (2 年職場体験) 8/22～ ※新城市内の事業所	・ 1 学期の取組の評価と改善 (アンケート、自 己評価)
9 月			・ 第 1 回生徒・保護者向けアンケートの公開と 報告 (PTA 委員会 9/4, 学年通信等)
10 月			
11 月			
12 月	・ 学校評価委員会 ・ アンケート実施 ・ アンケートの集約と分析及び改善策の 検討	・ 第 2 回生徒・保護者向けア ンケートの実施 ・ 職員による 2 学期の自己評 価 (2 学期の反省と 3 学期 への提言・評価シート)	・ 「教員評価シート」(個人面談) ※確認と助言
20 年 1 月			・ 第 2 回生徒・保護者向けアンケートの公開と 報告 (PTA 委員会 1/18, 学年通信等)
2 月～ 3 月	※ 2～3 月については、前年度と同じ動き ・ 第 2 回鳳中生を語り見守る会 (3/18)		

3 学校教育目標の達成状況を知るために（実践例）

2年生では、夏季休業中に地元の事業所の協力を得て、職場体験学習を実施している。本校では、その機会をとらえ、生徒たちの姿を通して学校の教育目標の達成状況を知る一助としている。また、生徒たちが地域へ出掛け、地域の方々の下で職場体験学習をすることで、地域社会との連携にもつながる。生徒の職場体験学習に協力していただく企業には、「職場体験事業所アンケート」（資料8）の協力をお願いしている。



職場体験学習－測量体験

資料8

4月当初、校長より示された学校教育目標「新年度のスタートに当たって」を受け、目指す学校の姿（生徒の姿）を、学年や学級でより具体的な形で示した。それを2年生の「職場体験事業所アンケート」でも、チェック項目に加え実施している。

実際に「あいさつ」、「服装」や「時間を守る」といった項目では、学校で指導に力を入れていることもあり、良い傾向にあることが分かる。一方、「中学生らしい明るさ」や「積極性に欠ける」などの努力点も明らかになった。外部の方に、生徒の姿を直接見てもらうことのよさだと思う。

同様なアンケートによる調査は、1年生では、宿泊体験学習や自然教室において、3年生では修学旅行を利用した東京での企業訪問で実施している。

また、遠足、文化祭や保護者対象の授業公開においても、アンケートに協力していただき、学校評価の一つとして改善につなげている。

これらのアンケートは、どの学校でも実施していることで、特に目新しいことではないかもしれないが、本校では、こうした小さな活動の地道な点検を積み重ね、改善に生かすようにしている。

Q 参加した本校生徒の様子について教えてください。

		A	B	C	D	その他	計
1	あいさつや『はい』	22	24	1			47
2	言葉遣い	15	31	1			47
3	服装	26	21				47
4	時間を守る	39	8				47
5	我慢強さ	19	26	2			47
6	後片付け	18	28			1	47

A…十分にできた

B…できた

C…あまりできなかった

D…できなかった

Q 本校生徒について、よさを教えてください

素直 言われたことはできる 明るい

気持ちのよいあいさつ 真剣に取り組んだ 元気

地味な仕事も根気強くできた 積極性 《略》

Q 本校生徒について、不十分なところを教えてください

あいさつ・返事が小さい 積極的な質問や感想がほしい

3日目に疲れ 一人のときにあいさつができない

指示がなければ動けないので積極的な態度を

好奇心が出せない 多角的思考が足りない

各自テーマに対する思いが少なかった 《略》

Q 改善点や御意見

どのような体験をしたいかの打合せを十分にしたい

何を見たいのか、何をしたいのかを具体的に教えてほしい

体験の意義が生徒に伝わっていない

研修日誌の毎日の提出はどうか

マニュアル通りでなく、生徒の思いのお礼状がほしい

体験中の事故の対応について情報がほしい

実際は現実とのギャップが大きい。早くから見せたい

ものづくりの大切さと必要性を学んでほしい 《略》

4 研究の成果と今後の課題

(1) 成果

ア 職員の意識の向上

職員にPDCAサイクルの意識が次第に根付いてきた。また、職員一人一人が教育目標実現に向けて「意識」して取り組み、職員全員がかかわることの大切さを改めて認識することができた。学校行事終了ごとに、個々の職員が担当者のファイルに、次年度改善のために、気付いたことを書き込んでいく姿が見られるようになってきたことは、その一つの現れである。

イ 生徒の変容

授業、生徒会行事、体育大会などの学校行事だけでなく、実践例で述べた「2年生職場体験学習」のアンケート結果からも読み取れるように、本校の教育目標に掲げる学校重点努力目標の一つである「あいさつ」、「服装」、「時間を守る」といった基本的生活習慣の定着度合いも高まってきている。

(2) 課題

ア 評価に取り組む時間の計画的な確保

「教員評価シート」を活用したPDCAサイクルの職員への意識付けを図ることを目指した。職員各自が授業や校務分掌で校長の学校教育方針を受けて目標を設定し、学期ごとに校長・教頭の助言を受けながら改善を図るように努めてきた。しかし、職員全員を対象に行ったため、時間の確保が難しかった。夏季休業中などの、時間にゆとりのあるときをうまく活用したい。

学校評価研究委員会の機能の充実や校務分掌ごとの話合いの時間の計画的な確保を目指した。形式的には、PDCAを意識して取り組んできたが、夏季休業を除き、じっくり活動を振り返るための時間の確保がなかなかできなかった。それぞれの担当職員が、Check（評価）とAction（改善）をきちんとできるように、資料8の「年間計画表」の充実を図り、各月の行事予定表に位置付けていく必要がある。

イ 組織力が発揮できる体制づくり

校内現職研修の内容に学校評価の内容を盛り込む工夫を試みた。学校は、個々の職員のばらばらの取組では成果が十分得られない。組織力を発揮するために、職員相互の情報交換を図るとともに、全職員が集まる朝の職員打合せや職員会議の後の時間を利用し、管理職がリーダーシップを発揮し、共通理解のための時間の確保と、PDCAサイクルへの更なる意識の高揚を図ることが大切である。

5 おわりに

昨年度から始めた学校評価に関する研究実践は、正直なところ戸惑うことが多かった。これまで学校独自で評価は行ってきた。しかし、それはきちんとしたPDCAシステムを活用したものではなかった。また、校長が年度当初に掲げた学校の教育目標についても、日々の学習指導、生徒指導や部活動の指導などに時間を奪われてしまい、その達成具合については、年度末近くになって、ようやく一年間の取組を振り返るといった状況であった。特に、他の研究協力校の取組を参考にしながら、本校の実情を考慮した上で、学校評価システムづくりを進めてきた。上記の成果でも触れたが、生徒にも職員にも、少しずつ変容がみられるようになってきている。

学校評価のねらいの一つに、保護者や地域に信頼される学校経営がある。その信頼されるとは、生徒たちから「鳳来中で学ぶのは楽しい」という声を生み出すことである。今後も、より一層、そのような学校づくりを、保護者や地域の方々と連携を図りながら、職員一丸となって推進していきたい。